

## ツツピスキアブ



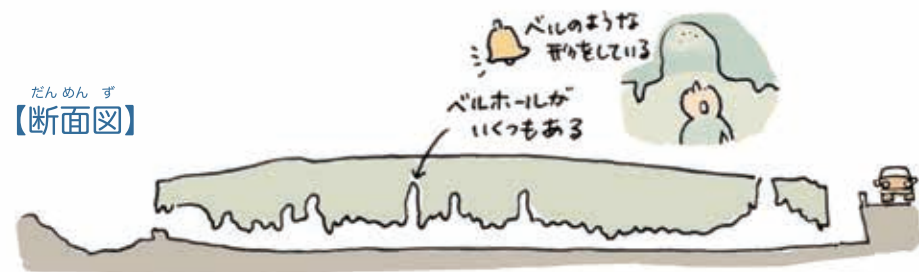
おお はらみなみこう えん ない い ち  
大原南公園内に位置するツツピスキアブは、市内では最大  
き ぼ よこ あな どう けつ  
規模の横穴洞穴です。この洞穴は、やくすう まん ねん まえ かいちゅう かい  
やサンゴなどの堆積物が、ち かく へん どう かい すい めん へん どう りゅう き  
地殻変動や海水面変動で隆起して  
りく ち あと う すい しんしよく き よう けい せい  
陸地になった後、雨水などによる浸食作用によって形成され  
たものと推測されています。ぐすく べ ち く  
城辺地区  
の アブチャー(仲原洞穴)、う え の  
上野地区の  
ピンザアブとともに古い時代の洞穴と  
かんが  
考えられています。



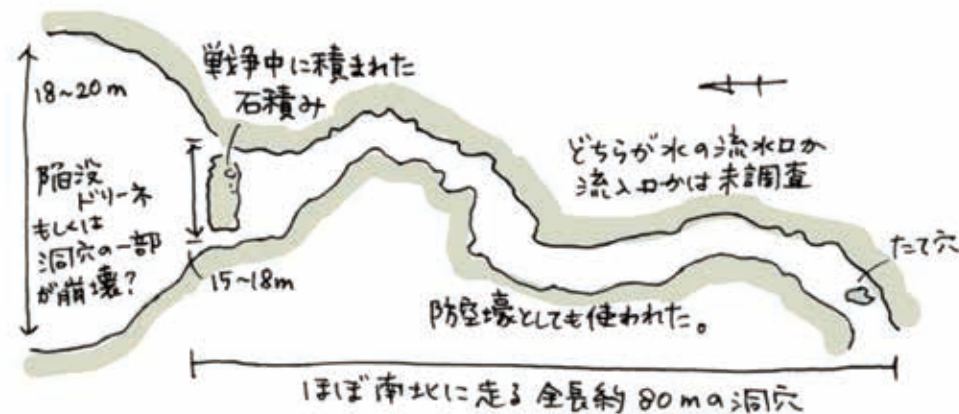
ツツピスキアブ = 「頂上付近を貫く洞穴」  
頂上部付近 貫く 洞穴



だん めん ず  
【断面図】



へい めん ず  
【平面図】



## 馬場団地の「馬場」って？

いまの市営馬場団地付近は「下里馬場」と呼ばれた、宮古で唯一の競馬場がありました。競馬場といっても、速く走ることを競い合う競馬ではなく、側対歩で、定められた直線コースをいかに美しく優雅に馬を歩かせるかを競う琉球競馬でした。1697(康熙36)年に首里王府から派遣された在番の友寄親雲上が作らせたもので、いわば士族のための競馬場でした。

明治になって近代化が進むと、士族は弱体化し、琉球競馬も廃れていきます。馬場は周辺の原野を切り開いて「宮古郡運動場」として再開発され、陸上競技大会をはじめとする郡規模で開催する催し物会場として転用されました。

1908(明治41)年、特別町村制の施行によって、これまでの間から町村に生まれ変わります。



初代平良村長に選任された仲松恵知は、この下里馬場で平良村創立式を執り行いました。

戦後、発展目覚ましい平良市は、1967(昭和42)年に旧馬場の再々開発に着手します。宮古で初めてとなる公営住宅団地を建設し、住宅難の解消を図りました。それが現在の市営馬場団地です。

※宮古では士族以外の競馬はかたく禁じられていましたが、1894(明治27)年、人頭税廃止が決定したことに歓喜した農民たちが、鏡原の地で盛大な祝宴を開き、初めての農民による競馬も催されました。それ以降、島内では昭和初期頃まで競馬が盛んに催され、鏡原の馬場をはじめとして各所に馬場が設けられました。現在、鏡原馬場跡は宮古島市指定史跡に指定され、いまでも当時の審判台が残されています。

## 宮古のサトウキビと城間正安と人頭税

1881(明治14)年、下里のヨシキ底に宮古で初めてサトウキビが植えつけられ、1883年には初の黒糖が製造されました。

1884年に、のちに人頭税廃止運動に心血を注ぐことになる城間正安が製糖技師として赴任してきませんが、当時、宮古では人頭税がいまだ続いており、納税の対象にならないサトウキビの生産は禁止されていました。

1888年、甘蔗栽培制限令の解除によってようやくサトウキビの生産ができるようになり、正安らによる製糖の指導も行われますが、農民たちは関心を示しません。理由は人頭税の負担が大きいうえに、出荷したサトウキビの代金が農民に支払われておらず、サトウキビを作っても収入にならないために反発していたのです。

それを知った正安は蔵元などと交渉し、砂糖で税を納められるようにすることと、製糖用の機具を無償で貸すことを認めてもらい、ようやく宮古でもサトウキビの生産が本格的に始められました。



しかし、依然として人頭税が重くのしかかり、農民の生活はいつに楽になりません。前年から続く飢饉も加わり、農民たちは負担軽減の嘆願をしますが、成果に結びつきませんでした。

そんな中、新潟県出身の中村十作が宮古島へ来島します。そして正安と知り合った十作は、困窮する農民の姿を知り、やがて人頭税廃止運動に傾倒していきます。

その後、十作と正安らの根気強い取り組みによって、1895年に人頭税の廃止が国会で採択され、1903年、1637年から続いた人頭税がようやく廃止されました。

人頭税廃止によって自由に商売ができるようになった宮古は大きく発展し、サトウキビの生産も徐々に増えていきます。

現在の宮古島のサトウキビ生産量は年間約30~40万トンほどで、沖縄県内の総生産量の40パーセントを占め、県内最大のサトウキビ生産地域となっています。



## カママ嶺公園は石碑の集合住宅？！

この辺りは蒲間嶺と呼ばれ、木々が生い茂る広大な丘陵でしたが、1976(昭和51)年に公園に生まれ変わりました。以来、長く市民の憩いの場となっています。高台にあるため、天気の良い日は宮古の島全てを見ることができます。また敷地内には様々な石碑が立ち並び、宮古の文化の一端を覗くことができます。

石碑名：(建立年)



ドイツ皇帝博愛記念碑  
レプリカ (1972)

建碑 100 年記念祭の際に建立。

博愛 公爵近衛文麿書 (1977)  
ドイツ商船遭難にまつわる碑。



「しんしんと 肺碧きまで 海の旅」  
篠原鳳作句碑 (1972) 宮古高校教師を  
勤め、島の文学界に影響を及ぼした。



シーサーも  
いろんなところに

### 玄玄郷

カママ嶺公園に植物を寄贈  
した小林玄二に感謝する碑。

宮古島 6 島  
全てが見渡せる

展望台 &  
防災備蓄倉庫

「風に乗る ほかなし島のはぐれ鷹」  
平良雅景句碑 (2009)  
鳳作の句碑の建立に尽力した人物。

島燃ゆる…情熱波紋 とどけこの想い!!  
(1993) 日本青年会議所沖縄地区大会記念碑。



シーサーの滑り台は子どもたちに大人気

グラウンドゴルフ  
ばっしらいん宮古島コース  
南部忠平杯グラウンド・  
ゴルフ大会に由来。

南部忠平氏を讃える碑 (1989)  
日本グラウンドゴルフ協会の  
初代会長を讃える碑。



宮古のクイチャー解説碑

とうがにあやぐ 歌碑 (2013)  
古くから歌い継がれる宮古の  
代表的な歌の碑。



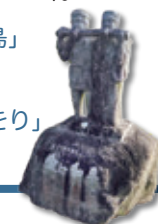
「まかがよふ 真砂の浜は 寂漠と  
時の器をみたしつたり」  
平良好児歌碑 (1991) 宮古文学界  
の「種時く人」と呼ばれた。

非戦の誓い (2007)  
「日本国憲法 第九条」を記した碑。

愛と和平 (2023)  
台湾出兵のきっかけとなった牡丹社  
事件の加害者と被害者の和解の象徴  
として台湾から寄贈された碑。

「蒼海へ 鷹を放ちし 神の島」  
山田弘子 句碑 (2005)

「神々の 高さに鷹の 光りをり」  
山田佳乃 句碑 (2015)



愛と和平

# みや こ 宮古のクイチャー



クイチャーは宮古各地に伝承されている集団舞踊で、人々の祈りから始まったといわれる伝統芸能です。  
豊年祭や雨乞いなどの祭祀として、また娯楽として、集落ごとに生き生きと踊られてきました。野外で男女が輪になり、大地を踏みしめ、皆で声をあわせて歌い踊ることから、「くい(声)を合わせる(チャー)」と呼ばれています。歌は本来、楽器を使わず、豊穰を祈る歌や雨乞いの歌、生活や労働の悲しみや喜びなど、多彩多様な内容が謳われています。

## はり みず 漲水のクイチャー

はりみず ひかくてきあた  
漲水のクイチャーは比較的新しいクイチャーで、人頭税廃止の請願運動に上京したひとびとむか つく い 人々を迎えるために作られたと言われていす。歌詞は人頭税の辛さを歌っており、当時の生活や垣間見ることができます。

1. 漲水ぬ舟着ぬ つすうなぐぬよ  
(漲水港の船着き場の白砂が)  
※イイヤヌ ヨーイマーヌーユ  
つすうなぐぬよ ニノヨイサッサ  
イヤサッサ(※以下くりかえし)
2. 粟んななり 米んななり 上りくばよ  
(粟や米になって上がってくれば)
3. 島皆ぬ三十原ぬ 兄小達やよ  
(島中の村の若者たちは)
4. ピラとらだカニや押さだ ゆからでだらよ  
(ヘラを手に取り鋤を押さなくても楽になるのに)
5. 大神ぐすフジ並び 折波小ぬよ  
(大神島の後ろのフデ岩の瀬に寄せる波が)
6. 糸んななり かしんななり 上りくばよ  
(糸や総になって上がってくれば)
7. 島皆ぬ三十原ぬ 姉小達やよ  
(島中の村の姉さんたちは)
8. ぶやんまだ糸掛だ ゆからでだらよ  
(苧麻を績まず総をかけずに楽になるのに)

(意訳)





## むかしの海岸線を歩いてみよう

埋め立てでほとんど面影がないように見える  
まちなみも、よく観察をすると、昔の様子を知  
ることのできる場所がいくつかあります。



昔は急崖をカーブを描きな  
がら緩やかに登っていた。



# ピキャズ



ピキャズは、下地島の「通り池」のような、規模の小さい  
 陥没ドリーネです。きれいな円形の穴が開き、アーチ状の横  
 穴で海と繋がっています。市内の降り井で失くした木桶がピ  
 キャズで見つかったという伝承があり、「地下で水脈(潮)が繋  
 がっている=ピキャズ」が名前の由来だ  
 と言われています。また、大立大殿と  
 空広(のちの仲宗根豊見親)が初めて出  
 会った場所とされています。



## 大立大殿と空広の出会い

14世紀末から15世紀にかけ  
 て平良を拠点としていた、与那  
 覇勢頭豊見親の孫、大立大殿  
 は、父の泰川大殿が重い病のた  
 めに隠居し、ふたりの兄も早く  
 に亡くなったため、家督を継い  
 で首長として宮古を治めていま  
 した。

ある日、大殿は部下を伴って  
 ピキャズへ漁に行く途中、畑で  
 使用人たちに見事な指揮をして  
 いる子どもを見かけました。

その子どもに興味を持った大  
 殿は声をかけました。

「おまえはどこの家の子か？」

「私は根間の大親の養子で、

空広という者です」

「年はいくつか？」

「7歳になります」

先ほどの指揮ぶりといい、こ  
 の堂々とした受け答えといい、  
 面白い子どもに出会ったと喜ん  
 だ大殿は、空広を誘ってピキャ  
 ズへ漁に向かいました。

この日の漁はとても大漁で、  
 大殿は空広の知恵を試そうと考  
 え、「お前が今日の魚玉をうた  
 せてみよ」と命じます。

“魚玉をうたす”とは、獲れた  
 魚を人数分に配分することで、  
 空広は瞬く間に手際よく公平に  
 配り終えました。

空広の聡明さに大殿は感服  
 し、それからは自分の子どもの  
 ように空広を可愛がって教育を  
 施し、やがて政務を手伝わせる  
 ようになりました。

こうして大殿の元で養育を受  
 けた空広は、のちに大殿の後継  
 者として島を治め、仲宗根豊見  
 親と呼ばれて広く人々に敬われ  
 るようになりました。





うぶ だてい うぶ どうぬ

大立大殿みゃーか



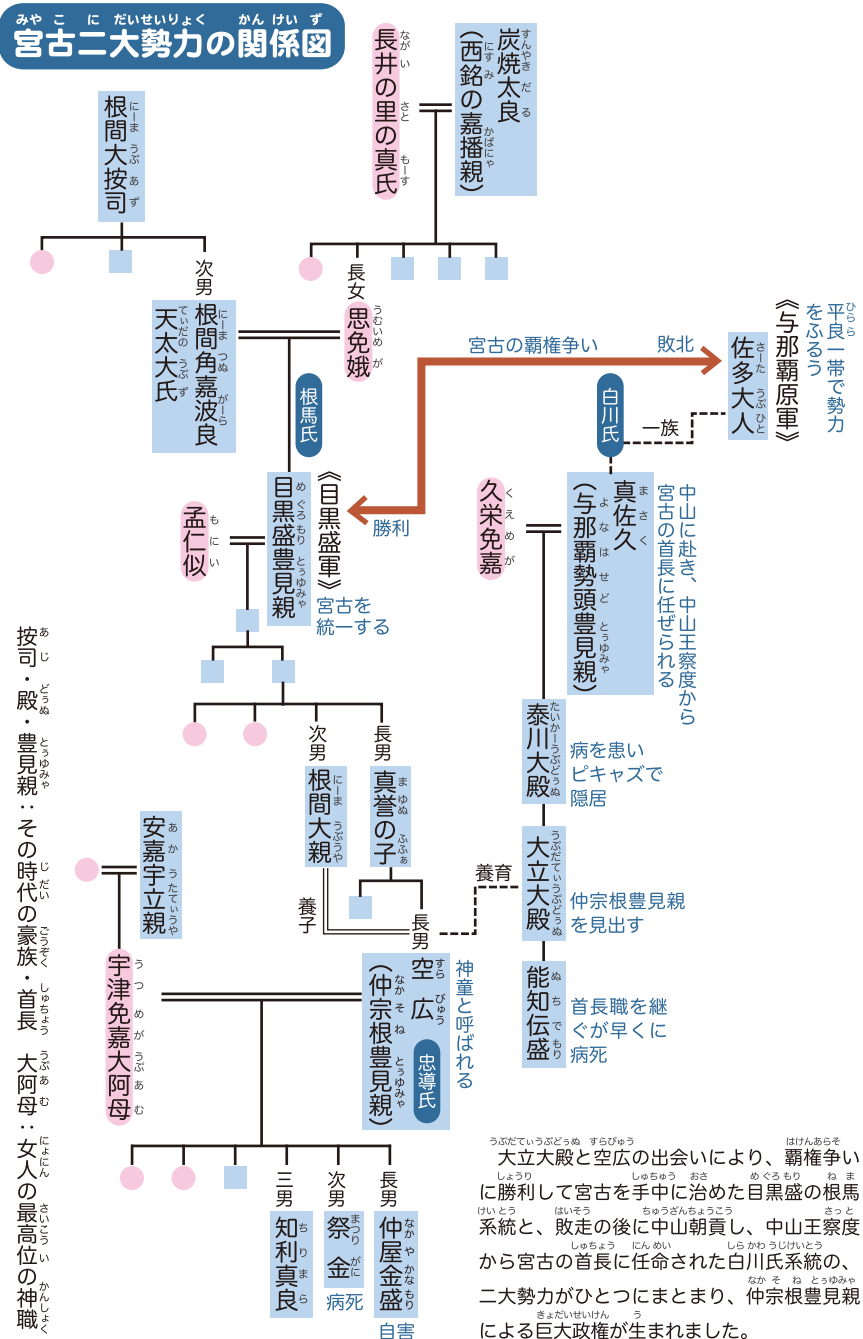
八重山博物館所藏：1937年大島廣(南西諸島資源調查団員)撮影

うぶだていうぶどうぬ きよ せき ぼ せい き こう はん しゅちょう  
大立大<sup>き</sup>殿<sup>だん</sup>みゃーか(巨石<sup>きし</sup>墓<sup>ぼ</sup>)は、15世紀後半に宮古島の首長  
をつ はか い つた  
を<sup>を</sup>務<sup>む</sup>めた大立大<sup>き</sup>殿<sup>だん</sup>の墓<sup>ぼ</sup>と言<sup>い</sup>い伝<sup>つた</sup>えられています。大立大<sup>き</sup>殿<sup>だん</sup>は  
はじ ちゅうざん ちようこう よ な は せ ど とうゆみゃ まご  
1390年に初めて中山に朝貢した与那覇勢頭豊見親の孫にあたり、  
のちのなか そ ね とうゆみゃ すらびゅう そだ あ  
仲宗根豊見親となる空<sup>そだ</sup>広<sup>あ</sup>を育て上げました。

かつては海岸の崖のそばに造られて  
いましたが、埋め立てと道路拡張に  
よって墓の周辺が削り取られたため、  
今の形で残されています。



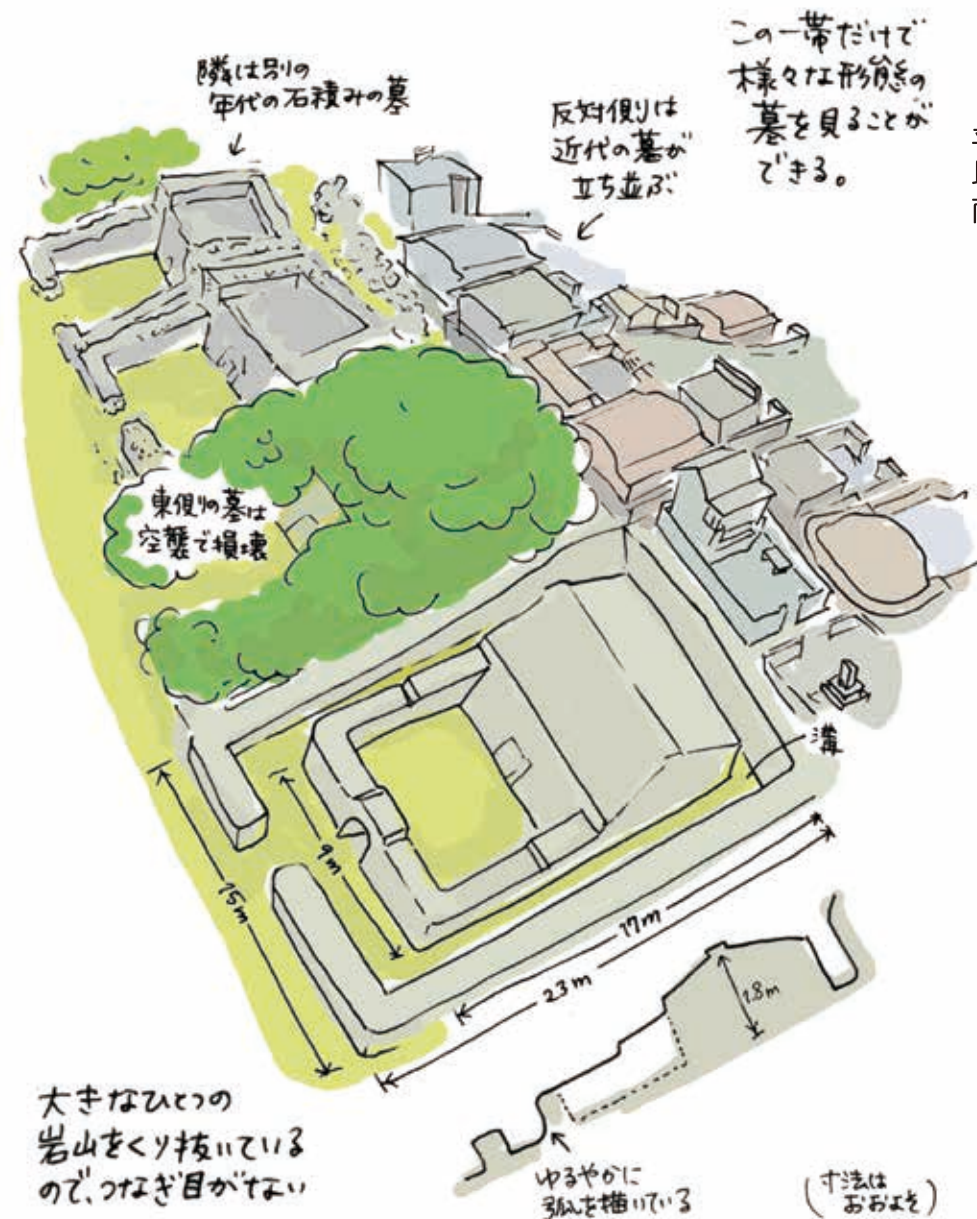
みやこにだいせいりよくかんけいず  
宮古二大勢力の関係図



# 西ツガ墓



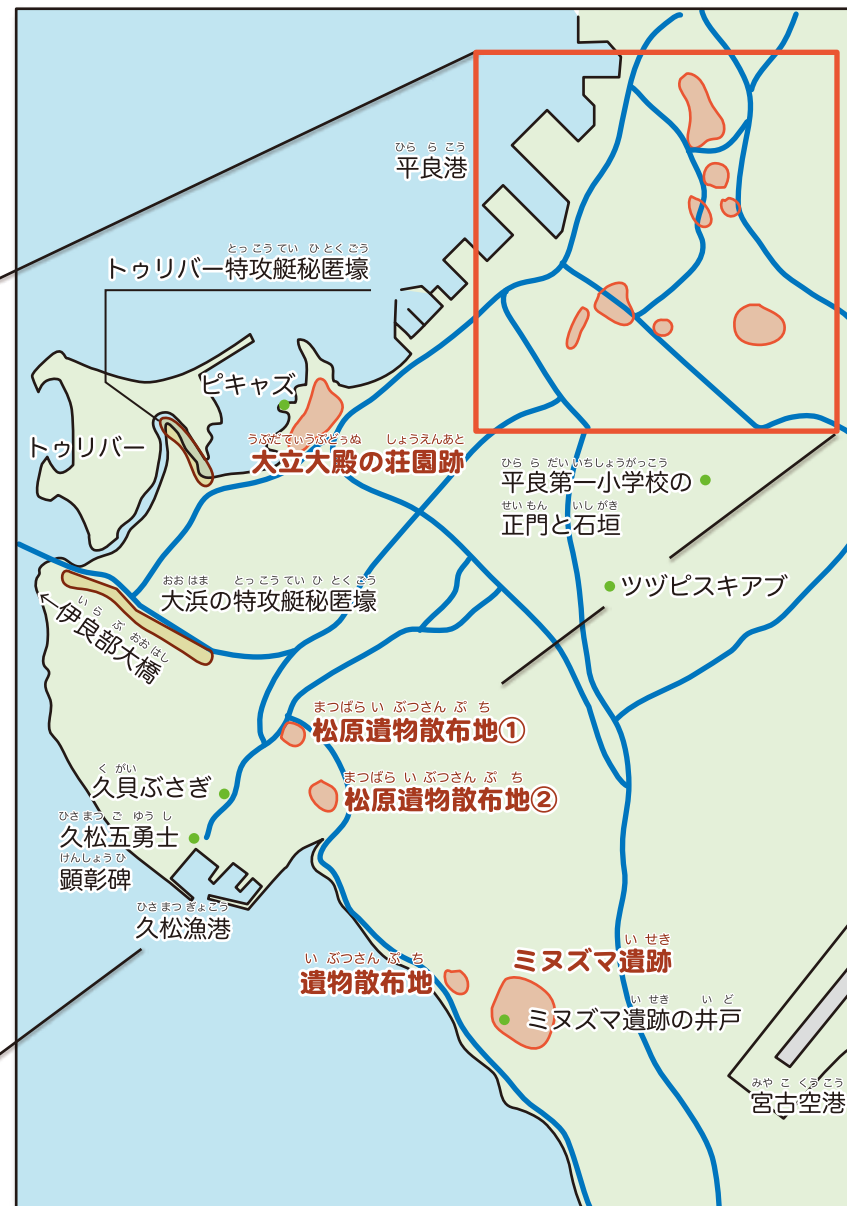
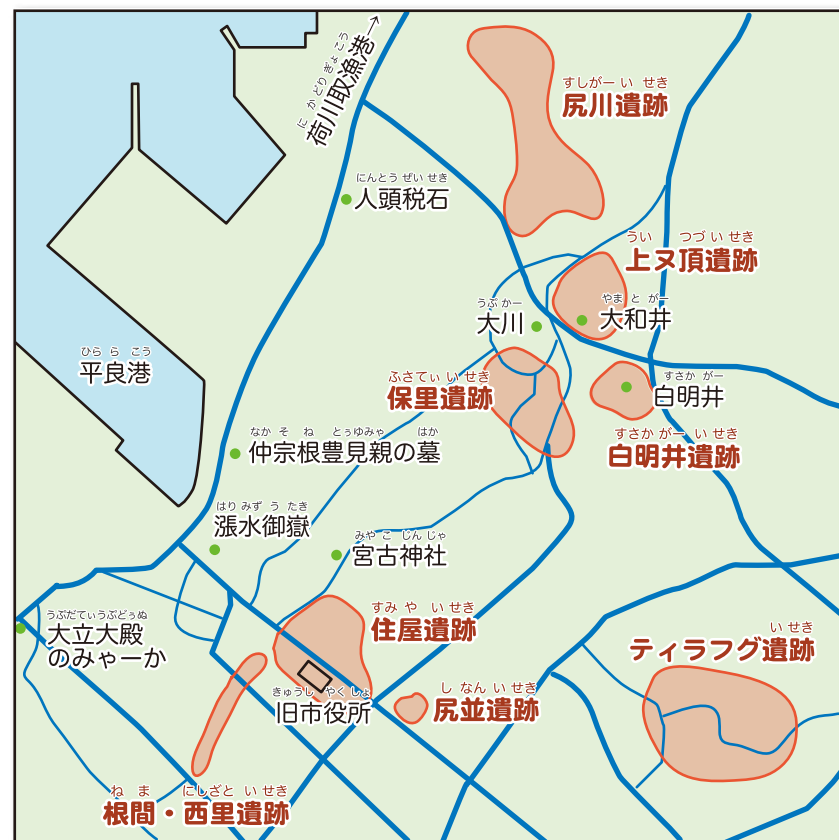
西ツガ墓は、多くの頭職を輩出した、益茂氏一門の墓です。岩盤を削り出して造られているため、墓の入口もアーチ状にくりぬかれ、岩につなぎ目が存在しません。「ツガ」とは升を意味し、墓の周囲を掘り下げて真四角に造られていることから、墓名の語源とも言われています。また、東隣にも同様の規模を誇る墓がありましたが、こちらは先の大戦の空襲によって破損してしまいました。この墓の周辺には多くの墓が密集し、墓の作られた年代などによって、様々な墓の形態を見ることができます。





宮古では1981～82(昭和56～57)年にかけて沖縄県教育委員会による遺跡分布調査を実施し、表面踏査による調べで85か所の遺跡が確認されています。また近年の土地開発に伴い、新規の遺跡も数多く発見されております。

平良市街地や松原・久貝周辺は古くから人々が生活しており、埋蔵文化財が残されている可能性が非常に高い地域です。遺跡の表面に土器片や陶磁器片が散布していることが多いため、散策時に気にとめて歩くと、よりコースを楽しめるでしょう。 ※遺跡内の遺物を持ち帰ることは法律で禁じられています。



# まつ ばら く がい ひさ まつ 松原・久貝(久松)



しも じ ま ぎり そく まつ ばら むら うる か  
下地間切に属していた松原村と、砂川間切に属していた久貝村は、1908(明治41)年に施行された特別町村制によって、ひら 村の松原・久貝という字に置き換えられました。

ち い き めい した ひさ まつ  
地域名として親しまれている「久松」は、1898(明治31)年  
せつ ち じんじょうしょうがっこう ぶんぎょうじょ のち  
に設置された、平良尋常小学校久松分教所(後の久松小学校)が  
はじまりと言われています。

また、この地域は古くから「野崎」とも呼ばれています。

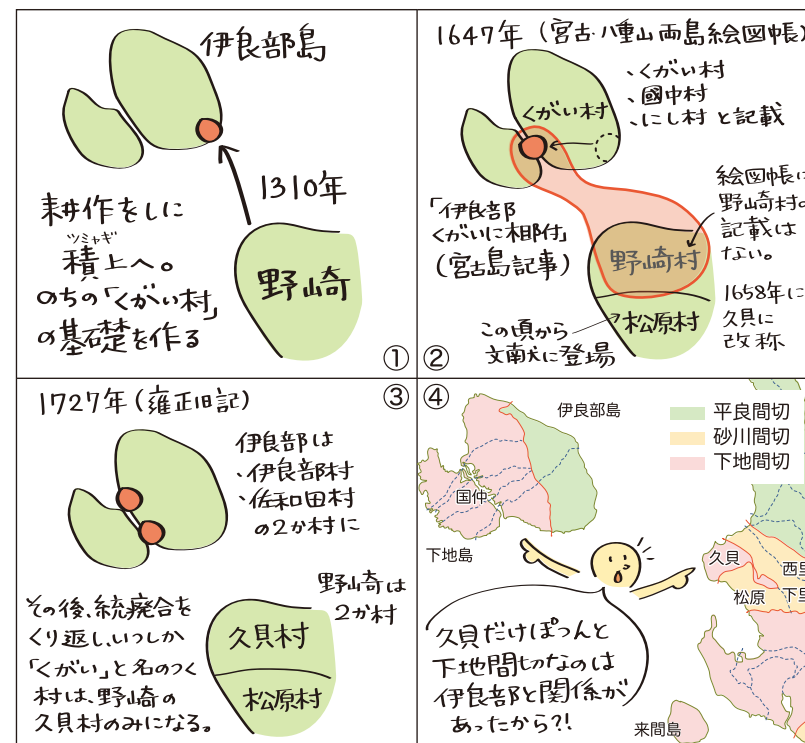
## ぬ ざき まつ ばら く がい い ら ぶ かん けい 野崎と松原と久貝と伊良部の面白い関係

もともと いま ひさ まつ よ ち いき  
元々、今の久松と呼ばれる地域  
には「野崎」という集落があり、伊  
良部村史によると、1310年頃に野  
崎から伊良部に渡り、土地を耕  
し、のちの「くがい村」となる基礎  
をつく した  
を作ったと記されています。

また、『宮古島記事(1752)』に  
よれば、野崎村は伊良部の「くがい  
村」の人口増加にともない、野崎の

久貝に与人を置き、「久貝村」と名  
を改めたとあり、その年は1658年  
であると『球陽(1745)』に記され  
ています。

「久貝村」の村立後は、元々あっ  
た松原村と合わせて野崎2か村と  
して記されるようになり、現在で  
も両集落を総称して「野崎」と呼  
んでいます。





# 松原・久貝 散歩マップ

距離：約 2.4 キロ  
所要時間：1～2 時間

ミヌズマ遺跡の井戸 P54  
ミヌズマ遺跡 P55

ウブザー  
(シムヌ主) 御嶽 P52

クジナ(久知名) 御嶽 P53

スキラズ  
マダニアース 御嶽 P58

松原

久松みゃーか  
(巨石墓) 群 P50

松原の獅子舞  
(シーシャ) P44

久松の海神祭(ハーリー) P42

久松五勇士顕彰碑 P46

ウブドマーラ  
(大泊) 御嶽 P48

久貝

1962 年の海岸線 (参考：国土地理院)

松原・久貝 (久松)